

◇ 8月の天文暦 ◇

日時	記	事
7 5	望	
8 14	立秋 (太陽黄経 135°)	
9 10	月 最近	
10 16	火星 衝	
12 9	火星 留	
12	火星 地球最近	
13 20	下弦	
21 8	朔	
24 4	処暑 (太陽黄経 150°)	
25 5	月 最遠	
27 0	水星 内合	
28 4	金星 外合	
29 12	上弦	



バービッジ夫妻 (成相恭二撮影)

バービッジ (Burbidge) 夫妻

ジェフとマーガレットの夫妻は B² と呼ばれるほど、多くの重要な論文を共同で発表している。2人が愛らしいお嬢さんを伴って初めて日本を訪れたのは十年前で、この夫婦を美女と野獣とひそかに評した失敬な人もいたが、息の合った夫(婦)唱 婦(夫)随ぶりは見る人を感歎させたものであった。今は中年の夫婦となったが、その風格と品格には益々磨きがかかり、天体物理学の国際的指導者として敬愛されている。

旦那は原子核の理論で研究者としての生活を始めた人で、1959年頃に中間子捕獲についての論文を出したことがある。奥さんは天文の観測者で、今でも寒い山の上でニュートンに登って夜を過している。2人が有名になっ

たのは B²FH と呼ばれる元素の起源に関する長い論文である。私が最初にジェフに会ったのは、彼が自から呼ぶ“awful paper”を書き上げた時であった。彼は原子核の膨大な知識を回転の速い頭脳で天体現象に取り入れ、彼女は暴走し勝ちな彼の理論を手固い観測でつなぎ止めた。その後国際学会で何度か2人に会ったが、演壇とフロアーの間でも彼女の手綱が見事に奔馬をさばっているのが見られた。

2人の協力によって行なわれた仕事は、その主なものだけをとってもこの紙面には紹介しきれない。強いてまとめれば銀河に関する一連の仕事とよいてであろう。特に Quasi-stellar Objects については、この表題の著書になっている。もっとも生意気な年頃になったお嬢さんによれば、Crazy Stellar Objects なのだそうである。ケンブリッジの本屋でお嬢さんといっしょに本を選んでいたバービッジ一家に会ってから、もう3年近く会っていないが、その後どうしているであろうか。

(早川幸男)

